



目次	企画展.....5
「文学と格差社会」.....1	「月刊俳句雑誌『菜菔火』創刊700号記念 表紙絵にみる歴史展」
第7回特別企画展.....2	2010年収蔵品展「火野葦平没後50年」
「橋本多佳子-雪はげし抱かれて息のつまりしこと-」	自分史ギャラリー「河伯洞余滴」公開
文学講座	門田隆将さん特別講演会
HAIKUドラマティック・コンサート.....3	第1回あなたにいたくて生まれてきた詩コンクール.....6
坪内稔典さん講演会	佐木隆三館長と学ぼう！こどもペンクラブ.....7
交流ステージ・ワークステーション	宗左近資料の寄贈
平成22年度夏休み企画展.....4	火野葦平資料の寄託
「ちいさないのちのこえがする-みずかみかずよの世界-」	機械遺産「自動算盤」の寄贈
長野ヒデ子さん講演会	ごあんない.....8
文学館コンサート	第8回特別企画展/川上未映子さん講演会・文学講座
詩の絵本をつくろう！	島田雅彦さん講演会/資料寄贈者・提供者受贈雑誌一覧

文学と格差社会

館長 佐木 隆三

二〇一〇年八月六日と八月九日は、広島市と長崎市へ行き、「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列しました。毎年テレビ中継で欠かさず観ていますが、六十五周年の今年はじつとしておられず、JR小倉駅から駆けつけたのです。

一九四五年八月十五日の敗戦は、広島県高田郡小田村（現在は安芸高田市甲田町）の国民学校尋常科二年生で迎えています。

八月六日朝、祖母の農作業を手伝っているとき、「ピカッと光りやせんかったか？」と空を見ると、遠方に巨大なきのこ雲が立ち上がって夕方には負傷者で村の学校は満員になり、みるみる死者が増えました。

原爆がテーマの自著は、短編連作『きのこ雲』（八二年八月、中央公論社）だけです。連続殺人犯をモデルにした『復讐するは我にあり』（七五年十一月、講談社）から、もつ

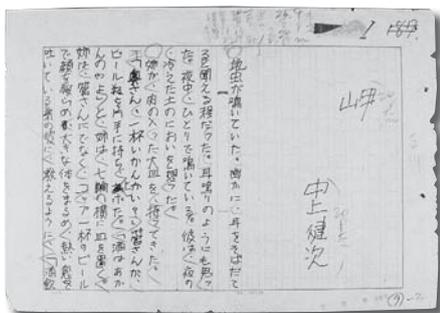
ばら犯罪小説を書いてきたので、「きのこ雲を残しておいてよかった」と思う程度でしたが、馬齢を重ねるにつれ「自作の主人公は数人しか殺していないのに広島・長崎の原爆の犠牲者数は？」と考えさせられています。

第八回特別企画展「文学と格差社会―樋

口一葉から中上健次まで」は、日本近代文学館に全面協力いただきました。個人的な感慨ですが、展示される中上さんの原稿「岬」は第七十四回芥川賞受賞作で、わたしの「復讐するは我にあり」の直木賞と同時に受賞ですから「同期の桜」ということでよく一緒に新宿界限を飲み歩き、彼に呼ばれて新宮市へ講演に行ったりしたんですね。

九つ年下の中上さんが「純文学の巨星」になり、一九九二年八月十二日、四十六歳の若さで腎臓ガンで亡くなった夜に、「おい健ちゃん、そりやないだろう」と泣いて泥酔したことなど、忘れてくても忘れられませんが、今となつては黄泉の国から、「あ

なた、現役引退したつもりなの？」と嘖われないために、老骨に鞭打つしかないようです。



中上健次「岬」原稿

◆第8回特別企画展 「文学と格差社会」

樋口一葉から
中上健次まで

石川啄木、幸徳秋水、小林多喜二、葉山嘉樹、中野重治、水上勉などの作家が、「格差社会」をどのように描いたか、自筆原稿や書簡などを展示し紹介します。

＊開催期間

平成22年10月23日（土）

～12月12日（日）

※月曜日休館

＊観覧料

一般 400円

中学生 200円

小学生 100円

（年間パスポートは適用されません）

展示構成

第一部 貧しい明治の庶民たち

第二部 社会思想の目覚め

第三部 「蟹工船」とプロレタリア文学―格差社会への抵抗と挫折

第四部 底辺からの視線―大正・昭和の格差社会から

ほか、郷土ゆかりの作家も紹介します。



樋口一葉



「たけくらべ」原稿

◆ 第7回特別企画展

「橋本多佳子 ―雪はげし抱かれて息のつまりしこと―」

平成22年4月24日(土)～7月4日(日)

戦後俳壇のスター作家・橋本多佳子の展覧会を開催しました。多佳子は小倉の地で俳句に開眼し、杉田久女の教えを受けたゆかりの俳人です。



開会式でごあいさつされる
橋本美代子さん(橋本多佳子四女)



会場の様子

一輪凍湖一輪光りあふ

+++++ 来館者の声 +++++

◇ 趣味で俳句をしているが、橋本多佳子展を見て、一層、俳句と多佳子への興味が増した。また、ゆっくり訪れてみたい。句会にも初参加し、とても楽しかったのでまた企画していただけたらと思います。(30代女性)

◇ とても良い内容で驚きました。他の施設もまわるので、あまり時間がとれず残念です。また来たいと思っています。(50代男性)

◇ 大変わかりやすい。パネル解説や写真、資料が多く集められ、充分楽しめた。(60代女性)

◇ 多佳子を多面的に知ることができて良かったです。(70代男性)

雪はげし抱かれて息のつまりしこと
橋本多佳子の代表句でも、特に大胆で美しい作品を副題にした展覧会です。

橋本多佳子は、大正時代に夫の転勤に伴い、小倉へ移り住みました。「櫛山荘」と名づけられた瀟洒な新居で四人の娘に恵まれ、幸福な日々を過ごします。上流夫人のたしなみの一つとして始めた俳句ですが、それはやがて、多佳子の生そのものとなっていくます。

杉田久女から俳句の手ほどきを受けた後、大阪へ転居。終生

の師である山口誓子と出会い、自らの句を確立しました。

いなびかり北よりすれば北をみる
墨粟ひらく髪の先まで寂しきとき
など、今日も愛吟される代表作が生まれます。
展覧会では、櫛山荘時代から奈良の晩年に至るまで、およそ一五〇点におよぶ自筆資料を展示。一人の女性が俳句作家として自立していく足跡をたどりました。

展示資料約150点
入場者1696人
(イベント含む)

+++++++ 文学講座 ++++++

橋本多佳子を実際に知る人から文学研究者まで、多角的な視点から人と作品について講義していただきました。

◎ 4月24日(土)

橋本美代子さん (俳人、「七曜」主宰)

「母・多佳子」

◎ 5月22日(土)

寺井谷子さん (俳人、「自鳴鐘」主宰)

「多佳子とその清冽な情念」

◎ 6月5日(土)

久保田裕子さん (福岡教育大学教授)

「女性俳人の肖像―松本清張の描いた橋本多佳子」

◎ 6月19日(土)

野中亮介さん (俳人、「馬酔木」同人、「花鶏」主宰)
「『馬酔木』時代の多佳子」

◎ 6月26日(土)

阿部誠文さん (歌人、俳人、元九州女子大学教授)
「多佳子は多佳子」



文学講座の様子
(野中亮介さん)

受講者1延べ161人

◆ H A I R K U

◆ ドラマティック・コンサート

5月8日(土)



朗読の三輪さんとチェロ演奏の関原さん

展覧会の開催を記念し、橋本多佳子の俳句をモチーフにしたオリジナルストーリーの朗読コンサートを行いました。

朗読は、スピーチセラピストとして北九州市内外で活躍される三輪純子さん。シナリオもご自身のオリジナルです。関原弘二さん（響ホール室内合奏団）のチェロ演奏とコラボレーションしました。

北九州芸術劇場小劇場
参加者1106人

参加者の声

◇映像は疲れるので、こういうコンサートはとても良いです。イメージをふくらませるのが楽しいです。チェロとのコラボの世界は素晴らしいの一言です。美しい世界に魅了されました。(40代・女性)

◇俳句の可能性が広がったと思います。ドラマになるなんて。(50代・男性)

◇ただ俳句を聴くだけではなく、三輪先生の世界に絶妙なタイミングのチェロの生演奏。最高のひとときを頂きました。感謝です。(50代・女性)

◇素晴らしい時間をありがとうございました。まるで別の世界にいらさって頂きました。(70代・女性)

◆ 坪内稔典さん講演会

「橋本多佳子のもたらしたもの」

5月21日(金)

毎日新聞「季語刻々」で

おなじみの俳人・坪内稔典さんに橋本多佳子の魅力を語っていただきました。

坪内さんは、多佳子の第三句集『紅糸』を高く評価。女性の肉体が開示された戦後まもない時代を反映していると指摘されます。また、代



講演中の坪内さん

参加者の声

◇先生の熱弁に圧倒されっぱなしでした。はるばるいらしてくださりありがとうございました。(40代・女性)

◇ユーモアとインタレスティング。おもしろかったです。俳句への考え方にも得心(60代・男性)

◇モーロクの話、とてもおもしろかった。俳句の楽しみ方もいろいろあると教えられ、見方が広がる。(70代・女性)

◇何と楽しい時間だったことか。私もモーロクしようかしら。(80代・女性)

坪内さんが提唱される〈モーロク俳句〉のススメに、会場はどよめき。終始笑いの絶えないお話となりました。

北九州芸術劇場小劇場
参加者1154人

坪内稔典さんが第13回桑原武夫学芸賞を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。

◆ 交流ステージ・ワークショップ

「船団の会」主催

句会ライブ in 北九州

5月22日(土)

坪内さんが代表を務める「船団の会」主催の句会ライブが行われました。

自由参加で投句を行い、作品を批評し合いました。コメントーターは、あざ蓉子、寺井谷子、火箱游歩の各氏。坪内さんが司会進行されました。

「みどりの日背中で返事するなよな」「亀鳴くや片目はつむる覗き穴」など初夏の句が生まれました。



句会ライブ

◆平成22年度夏休み企画展

「ちいさないのちのこえがする

—みずかみかずよの世界—

7月17日(土)～8月31日(火)



開会式 右より 山本飛雲さん、久富正美さん、水上平吉さん、才所秀久さん、佐木館長

モチーフにしたメッセージカードには、子どもたちからの感想が多数寄せられ、青空だったメッセージボードは、きれいな夕焼け空となりました。

展示資料 約100点
入場者数 2095人
(イベント含む)

夏休み期間に合わせて、みずかみかずよの展覧会を開催しました。
みずかみかずよは、八幡東区で暮らしながら、児童文学誌「小さい旗」を拠点に、詩や童話の創作に励んだ詩人。「金のストロー」など、これまで9編の詩が小学校の国語の教科書などに採用されています。
自筆の原稿や著書などをおして、やさしくあたたかな作品世界を紹介しました。
代表詩「あかいカーテン」を



展示の様子



メッセージカード

長野ヒデ子さん講演会

「馬野リテ子・みずかみかずよを語る・遊ぶ」

8月6日(金)



講演中の長野ヒデ子さん

絵本作家の長野ヒデ子さんに、みずかみかずよの思い出などをお話いただきました。

長野さんが幼い娘さんのために手作りした絵本に、児童文学者の岩崎京子さんが注目。岩崎さんから児童文学誌「小さい旗」を紹介され入会したのが、みずかみかずよとの出会いでした。
以来交流を深め、童話『こめんねキューピー』などの著書の挿絵を描くことになりました。
講演会後半には、みずかみかずよの夫の水上平吉さん、詩人の椎窓猛さんも飛び入り参加。賑やかな会となりました。

参加者 67人

文学館コンサート

「親子で楽しむみずかみかずよの世界」

8月11日(水)

北九州市少年少女合唱団の皆さんとNPO「えほんうた・あそぶうた」のにしむらなおと・まどか夫妻をお招きし、コンサートを開催しました。
合唱団の皆さんが、みずかみかずよ作詞による合唱組曲『燃える樹』より「馬でかければ」「二月の雪」などを合唱。清らかな歌声で会場を包みます。

にしむらさんご夫妻の演奏



北九州市少年少女合唱団による合唱

参加者 85人

詩の絵本をつくらう!

「描いてみよう」みずかみかずよの世界

8月19日(木)



完成した絵本を手にする参加者

みずかみかずよの詩を題材に詩の絵本を作るワークショップを開催。講師は原賀いずみさんと北九州インタープリテーション研究会の皆さんです。

最初に渡されたのは、みずかみかずよの詩13編が載った展覧会リーフレットと真っ白な厚紙製の台紙。これにパステルや水彩色鉛筆、色紙などを使って、詩と絵を描いてゆきます。
絵本作りの仕上げは、表紙や奥付に作者の名前を書くこと。ちよつと照れながらも、自分の名前を書き込み、世界に一冊だけの絵本が完成しました。

参加者 30人

企画展

「月刊俳句雑誌『菜殻火』」

創刊700号記念 表紙絵にみる歴史展

9月11日(土)～10月11日(月・祝)

1952(昭和27)年の創刊以来、今年で700号を刊行した俳句雑誌「菜殻火」の自主企画展です。

初代主宰・野見山朱鳥あすかは絵画にも優れ、多くの作品を残しました。このため、「菜殻火」は俳誌の枠にとどまらない美しい表紙絵を用いています。

今回は、棟方志功、坂本繁二郎らによる豪華な表紙絵原画を多数展示。野見山朱鳥や現主宰・野見山ひふみの作品のほか、「翼たばに(川端茅舎を喪い、今は朱鳥を得た)」と言わしめた、

高濱虚子直筆の朱鳥第一句集序文原稿などゆかりの資料も紹介します。

俳句に関心のある方はもちろん、美術と文学の出会いも楽しめる展覧会です。

展示資料約100点



菜殻火展会場の様子



火野葦平

二〇一〇年収蔵品展 火野葦平 没後五〇年

9月11日(土)～10月11日(月・祝)

春の収蔵品展に続き、火野葦平没後50年を考える展覧会を開催しています。

節目の年を機に、文学館では膨大な火野葦平資料の寄託を受けました(7面)。これらの資料研究によって、戦時下の文化研究も深まることが期待されます。

11月には火野葦平没後50年記念事業実行委員会による映画上映会、文学シンポジウム、絵画展などが予定されています。

展示資料約40点

自分史ギャラリー

「河伯洞余滴」公開

4月24日(土)
23年4月10日(予定)

今春より館内「自分史ギャラリー」において、第10回(平成11年度)北九州市自分史文学賞で大賞を受賞した、玉井史太郎さんの作品「河伯洞余滴」を大型パネルで紹介しています。

玉井さんは、若松出身の作家火野葦平の三男で、現在は葦平旧居「河伯洞」の管理運営にあたっています。作品には、国民的人気作家を父に持った重圧と、そこから逃れようとした自身の半生がうかがわれています。葦平の自死にまつわる逸話は貴重な証言となっています。作品からの抜粋や、葦平の写真などを展示し、自分史文学の魅力を紹介しています。



「河伯洞余滴」のパネル展示の様子

佐木隆三対談「自分史を語る」特別企画

北九州市自分史文学賞

20周年記念

門田隆将さん

特別講演台

4月17日(土)

山口県光市で発生した「光市母子殺害事件」を9年間近く密着取材してきたジャーナリストの門田隆将さんをお招きし、「なぜ君は絶望と闘えたのかー本村洋の3300日」と題し講演会を行いました。

裁判員裁判が始まったこともあり、多くの市民が、この講演会に参加しました。

重みのある門田さんの言葉に、参加者は真剣な面持ちで話に聞き入っていました。

質疑応答では多くの方から質問があり、今回のテーマの奥深さを改めて感じた講演でした。

参加者191人



講演中の門田隆将さん

◆第1回 あなたにایتたくて生まれてきた詩 コンクール 開催

北九州市立文学館では、北九州市出身の詩人 宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、こどもの豊かな想像力と表現力を伸ばすことを目的に、小学生を対象とした詩のコンクール「あなたにایتたくて生まれてきた詩コンクール」ことばはやさしく、こころはふかく」を行いました。

第1回にもかかわらず、1796点もの応募がありました（小学生528点／中学生1268点）。

応募された作品は、いずれも秀作ぞろいで審査員の先生も大変選考に苦労していました。

結果、以下のとおり最優秀賞「宗左近賞」「みずかみかずよ賞」など、小学生20作品（特別賞含む）、中学生19作品が決定しました。

近い将来、このコンクールから、日本の文壇を背負って立つ詩人や作家が誕生するかもしれません。

●小学生の部

（最優秀賞）

宗左近賞 「時」 6年 佐藤 桃子
みずかみかずよ賞 「だいすき、どうぶつえん」 1年 白川まりあ

（優秀賞）

北九州市長賞 「弟の宝物」 5年 林 光帆
北九州市教育長賞 「くいしんぼうのたっくん」 2年 近藤 和奏

（特別賞）

「やる気、スイッチオン！」 2年 三浦もとは

（佳作）

「てんごくへはどうやっていくのかな」 1年 石橋 悠真
「おもしろいね、『そらいろのたね』」 2年 竹田はるき
「おとうさんは、スーパーマン」 2年 皆川こう太
「赤ちゃんのおふろ」 4年 岸本 太陽
「うさぎの家族」 4年 高橋 美帆

（入選）

「かまきり」 1年 小南そうへい
「かまきりさんへ」 1年 田中いぶき
「ぼくのあさがおさん」 1年 丸岡ゆうき
「めがねをかけた先生」 2年 中澤あいな
「おばあちゃんの入いん」 2年 野口ゆめか
「わたしは、おふろのおひめさま」 2年 信國 ゆか
「すずめの木」 3年 林 良帆
「ぼくとママ」 3年 万田 優希
「妹」 4年 大鶴 航世
「石けんのへんなにおい」 4年 田中 里奈

●中学生の部

（最優秀賞）

宗左近賞 「道」 3年 高木 舜晟
みずかみかずよ賞 「妖精の心」 1年 武藤 茉莉

（優秀賞）

北九州市長賞 「こころ」 3年 高橋 佳希
北九州市教育長賞 「砂の造形」 1年 岡田 怜子

（佳作）

「ゴールイン」 1年 月野 力也
「一秒後を生きる」 2年 碓田 凜子
「このままでいいのだろうか」 2年 沖田 光
「私にとって剣道は」 2年 鬼石 望美
「心の中」 2年 木山 真里

（入選）

「バトントワリング」 1年 安部 恵実
「私の得意とヒルガオの得意」 1年 大井 葵
「誕生日」 1年 福井 菜月
「あなたが隣にいてだけで」 2年 赤松 志保
「あなたに伝えたくて…」 2年 大島あかね
「宇宙」 2年 加藤 侑希
「梅雨の日のコンサート」 2年 黒木 郁臣
「心の鍵」 2年 田口 綺香
「一輪の花」 2年 村上なつめ
「方程式」 3年 野島 大輔



受賞した中学生



朗読する受賞者

第1回 あなたにایتたくて生まれてきた詩 コンクール 表彰式 8月28日(土)

「第1回 あなたにایتたくて生まれてきた詩 コンクール」の表彰式を行いました。皆緊張した面持ちで、表彰楯や表彰状を受け取りました。

審査員で詩人の平出隆さんからは、未来の詩人たちに心のもったメッセージをいただきました。

集合写真を撮影し終わるとほっとしたのか、子どもたちにも笑顔がもどりました。

その後、代表の児童・生徒たちによる朗読、プロの朗読者による宗左近、みずかみかずよの詩の朗読が行われました。

子どもたちにはかけがえのないものになったようです。

◆佐木隆三館長と学ぼう！こどもペンクラブ

7月23日(金)・31日(土)

館長が講師を務める文章教室を今年も開催し、22人の小学生が参加しました。

今回は、小倉北警察署での取材に挑戦しました。

1日目は、館長から「取材の心得」について講義を受け、早速警察署に出発。警察官へのインタビューを行います。

同じ警察官でも制服が違うのはなぜ？嬉しかったことは？など、様々な質問が飛び出しました。警察手帳や手錠など、実際に使う道具も触らせてもらいました。

インタビューの後、署内を見学し、パトカー・白バイにも体験乗車。取材後、文学館に戻り、館長のアドバイスのもと作文に



小倉北警察署での取材の様子



佐木館長の指導のもと、作文をすることもたち

取り組みました。

2日目は、完成した作文を一人ずつ読み、館長が講評。新鮮な驚きが素直に表現された文章に、館長も驚いていました。

参加者からは、「文章を書くのが好きになった」「ほかの所にも取材に行きたい」などの声がありました。保護者からは、「館長に作文を褒めてもらい、励みになったようだ」などの感想をいただきました。

館長自筆の講評が入った作文は、8月31日まで文学館で展示しました。

参加者 22人

◆宗左近資料の寄贈

宗左近夫人の宗香さん(千葉県市川市在住)より宗左近関連資料約1万8千点を寄贈いただきました。

宗左近(1919-2006)は戸畑牧山峠生まれ。小倉中学、一高、東大に進み、詩人・美術評論家・仏文学者・翻訳家として活躍しました。

寄贈資料は、自筆の日記、原稿・草稿、書籍のほか、金子光晴、草野心平、司馬遼太郎などから送られた書簡もあります。代表作である長編詩「炎える母」の創作ノートも含まれており、宗左近研究にとって大変貴重な資料です。

今後資料整理や調査研究を行い、企画展などでご紹介したいと考えています。



宗左近自筆の創作ノートなど

◆火野葦平資料の寄託

8月10日(火)



玉井氏から目録を受ける北橋健治北九州市長

火野葦平長男の玉井闘志さんより玉井家所蔵の関連資料約3万点をご寄託いただきました。

8月10日、北橋健治北九州市長と闘志さんらご遺族が懇談。市長よりお礼の言葉が述べられました。

資料は長年、火野葦平資料の会が寄託を受け、若松の火野葦平資料館で保管し、散逸から守られてきたものです。文学館では寄託を機に、資料整理を進め、早い段階での公開を目指してまいります。

玉井闘志さんは、8月31日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

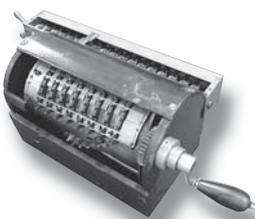
◆機械遺産「自動算盤」の寄贈

8月18日(水)

森鷗外がその才を認め、支援した天才発明家・矢頭良一の関連資料が、所有者の梅田利行さんのご厚意により、北九州市に寄贈されることになりました。

矢頭良一は、鳥類飛翔に関する研究に没頭し、その才能をみとめた森鷗外は、帝国理科大学(現・東京大学理学部)の研究室で飛行機研究を薦めます。その過程で、機械式計算機「自動算盤」を発明。当時の外国製計算機よりも優れた性能を持ち、機械遺産にも認定されました。

今回この「自動算盤」のほか、森鷗外や政治家の末松謙澄の書など貴重な資料を寄贈いただきました。「自動算盤」は現在、文学館常設展示室にて公開中です。



機械遺産に認定された機械式計算機「自動算盤」

「ごあんない」

◆第8回特別企画展

「文学と格差社会」

樋口一葉から中上健次まで

川上未映子(芥川賞作家さん)

講演台

「樋口一葉に出会った日」

芥川賞作家・川上未映子さんに、樋口一葉や自身の作品についてお話ししていただきます。

*日時 平成22年11月6日(土) 14時00分～15時30分

*北九州芸術劇場 小劇場

*定員 200人(抽選)

*お申し込み方法 往復はがきに代表者の住所・氏名(1枚につき2人まで、同伴者の氏名も明記)・電話番号を明記のうえ、北九州市立文学館「川上未映子講演会」係までお送りください。

文学講座

〔第1回〕10月30日(土)

佐木隆三(作家、北九州市立文学館館長)

「小説が語る真実―自著『小説大逆事件』について」

〔第2回〕11月20日(土)

馬場美佳さん(北九州市立大学准教授)

「本当の『格差』とは何か? ―樋口一葉が見つめた近代」

〔第3回〕11月27日(土)

波瀲剛さん(九州大学准教授)

「不安の矛先―昭和モダンを手がかりに」

〔第4回〕12月4日(土)

松原新一さん(久留米大学名誉教授)

「人は働くために食う。だが、

しかし―上野英信『地の底の笑い話』について」

〔第5回〕12月11日(土)

今川英子(北九州市立文学館副館長)

「大正から激動の昭和へ―林芙美子作品にみる世相と庶民」

*時間 13時～14時30分

*会場 北九州市立文学館

*受講料 無料(要入館料)

年間パスポート(400円)もご利用いただけます。

*定員 40人(先着順)

*お申し込み方法 10月17日(日)より電話受付

◆北九州市立文学館開館4周年記念・第2回日中韓東アジア文学フォーラム

2010 in 北九州協賛

島田雅彦さん講演会

『退廃姉妹』『徒然王子』『悪貨』などの作品で知られる作家、島田雅彦さんをお招きします。

*日時 平成22年12月2日(木) 18時30分～20時

*会場 北九州芸術劇場 中劇場

*無料

*定員 500人(抽選)

*お申し込み方法 往復はがきに代表者の住所・氏名(1枚につき5人まで、同伴者の氏名も明記)・電話番号を明記のうえ、北九州市立文学館「島田雅彦講演会係」までお送りください。(平成22年11月20日締切、当日消印有効)

◎資料寄贈者・提供者

受贈雑誌一覧(平成22年3月現在)

寄贈者・提供者

青森県近代文学館 秋吉久

紀夫 荒井千佐代 有森信

二 池田守一 石川一歩

市川市文学プラザ 市原猛

志 今井美紀子 入江春行

「風花随筆文学賞」実行委

員会 柏木恵美子 神奈川

近代文学館 鎌倉文学館

川原洋子 岸原清行 黒瀬

圭子 河野正彦 小倉高校

明陵同窓会事務局 五所美

子 仙台文学館 ゼンリン

プリンテックス 宗香 高

木和彦 田辺聖子文学館

谷喜美子 谷口絹枝 玉井

闘志 坪内稔典 寺井谷子

寺田敬子 東京都江戸東京

博物館 徳島県立文学書道

館 中川紀城子 中里良

中田勝康 中西輝磨 中元

大介 長野ヒデ子 成清良

孝 西村直人 野田宇太郎

文学資料館 野見山ひふみ

能村研三 波佐間義之 橋

本美代子 濱田源一郎 東

昭徳 深堀正平 福本弘明

藤井北灯 藤沢周平記念館

藤野智士 藤本水絵 古谷

龍太郎 Beate Wonde

星野允伸 前田淑 馬渡博

親 水上平吉 三鷹市山本

有三記念館 村永美和子

森鷗外記念館 安成元子

矢富巖夫 矢鳴豊子 山下

敏克 山中ノブ子 山本好

昭 吉川英治記念館 渡邊

和子 わたなべじゅんこ

提供雑誌

青嶺 馬酔木 Avanti

色鳥 海 沖 海峡派 牙

九州文学 九大日文 群炎

月刊俳句界 玄海 沙漠

自鳴鐘 周炎 少年詩の学

校 船団 川柳あやめ 川

柳くろがね 川柳むらさき

小さい旗 天山牧歌 天籟

通信 菜殻火 橋 ふだん

ぎ北九州 Michari 耳空

和布刈通信 與謝野晶子研

究 四人 (五十音順・敬称略)

◆橋本多佳子の句集、みずかみかずよクリアファイルできました!!

文学館文庫第5弾 橋本多佳子句集 (700円)

ととてもかわいいみずかみかずよクリアファイル(200円)

どちらも文学館内受付にて好評販売中です!!



■ JR小倉駅より徒歩15分 ■ JR西小倉駅より徒歩10分 ■ 勝山公園バス停より徒歩1分 ■ 北九州市役所前バス停より徒歩2分 ■ 北九州市都市高速大手町ランプより2分 ■ 駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい

発行 2010年10月1日 北九州市立文学館 〒803-0813 北九州市小倉北区内4-1 TEL 093-571-1505 http://www.city.kitakyushu.jp

■ 開館時間 火～金 9:30～19:00(入館は18:30まで) 土・日・祝 9:30～18:00(入館は17:30まで) ■ 休館日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日) 年末年始